

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

1.	人文学部	教育 1-1
2.	人文社会科学研究科（廃止）	
3.	教育学部	教育 3-1
4.	教育学研究科（廃止）	
5.	理学部	教育 5-1
6.	理学研究科（廃止）	
7.	医学部	教育 7-1
8.	医学系研究科（廃止）	
9.	農学部	教育 9-1
10.	農学研究科（廃止）	
11.	黒潮圏海洋科学研究科（廃止）	
12.	総合人間自然科学研究科	教育 12-1

人文学部

教育水準 教育 1-2

質の向上度 教育 1-5

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、人文学部の教育目的「『人間』『国際』『地域社会』の理解」に対応する形で3学科を設置するとともに、当該学部が特徴とする4年一貫の少人数教育体制であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、副学部長（委員長）と学科代表委員で構成される教育推進委員会の下に、教務委員会・就職委員会・改革委員会を組織し、教育内容・教育方法の改善に向けてカリキュラム改革、授業評価アンケート、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動、企業調査等を体系的に推進しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、共通教育では学びの基本スキルや姿勢を学びつつ専門導入教育を受けて専門教育へスムーズに移行できる課程編成を行い、専門教育では卒論作成に至る演習授業を当該学部の教育目的「習得した知識を統合し活用する能力の養成」に

則して重視しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、海外実習、企業等との連携講座、社会人による講義等を通して、グローバルな現実感覚を育成する教育、社会を担う自律した人材になるための問題意識を触発する教育を推進し、それらが新聞で紹介されたことから窺えらるるとおり社会から高い評価を得ているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

3. 教育方法

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、演習と講義のバランスに関して、学生によるバランス評価が、四つの教育目的のうち三つで「適切」とする回答が極めて高かったが、「『習得した知識を統合し活用する力』の習得」に対してのみ、40.8%とかなり低い。しかし、基礎教育における演習と講義を組み合わせた授業は教育効果をかなり高めているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生の主体的な学習、教員と学生のコミュニケーション活動の促進、これらのために当該学部が独自に開発したオンライン学習支援システム（SOULS）が様々な教育場面で活用され、学生の成績の向上等の教育効果を高めているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1

期中期目標期間における判定として確定する。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、全受講生の 83%が単位を修得しており、その内訳は「優」又は「良」が 69%である。また、卒論合格者は 93%にのぼっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学習成果に対する学生の自己評価結果によれば、学部の教育目的は、「幅広い教養の習得」と「基礎的専門知識の習得」を中心に、おおむね達成されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、様々なキャリア形成支援の取組を通して、中期目標である就職率 90%を達成している。また、進学率は 10%であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、毎年実施している就職先企業の訪問調査では、当該

学部の卒業生は「他者との協調性」や「学ぶ素直さ」などの面でおおむね高い評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、人文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 3 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。

教育学部

教育水準 教育 3-2

質の向上度 教育 3-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、学生定員の適正化が図られまた適正に配置された専任教員が責任を担う比率を高め、教育内容を高度化するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、改善に向けた教員相互の授業参観やアンケートが行われているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、課程の目的に沿った編成がなされ、各課程ともその目的に沿った科目を設定し、特に学校教育教員養成課程では実習系科目を充実させているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、授業に対する学生の満足度が 58 科目について 65%が「満足をしている」と回答し、「オープンクラス」による社会人の受入れや学校教員養成課程における地域現場との交流が進められているなどの相応な取組を行って

ることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

3. 教育方法

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、学部専門科目が講義と演習等の構成比率が適切であり、また少人数指導が行き届いているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生による各種のボランティア活動が多彩に行われ、展覧会や競技会での入賞、受賞が多いなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、卒論提出有資格者の比率が平成 18 年度、平成 19 年度について 97%、98%と高率であり、教員養成課程においては教育実習有資格者の割合が平成 16 年度以来 96%以上となっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 17 年度専門教育アンケート結果では、教師としての資質の形成、教養の形成に関する質問では、ポイントの低さが目立ち、この状況を改善する方法は現在検討中であるが、平成 18 年度専門教育アンケート結果では、65%の満足度を示しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、資料「卒業後の進路状況」に表れているように、就職者が 90%を常時維持しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、「就職先ヒアリング報告」に示されているように、教育委員会からの期待度が高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1

期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が 2 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。

理学部

教育水準	教育 5-2
質の向上度	教育 5-6

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成 19 年度に組織改組を行う以前は、3 学科 8 教育コースの教育課程を実施してきたが、数理情報科学科の入学者充足率が 100% をかなり割り込んでいたなどの原因を分析し、平成 19 年度から数学的思考力・英語力・情報処理能力を基盤とし、数学・物理・化学・生物・地学等の基礎理学を習得させる理学科と情報・物質・生命・災害等の応用理学を習得させる応用理学科の 2 学科・9 コース制の教育組織に移行しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、6 段階にわたる委員会（理学部運営委員会、理学部教育研究企画委員会、理学部学科長施設長会議、理学部学務委員会、理学部点検評価委員会、理学部教授会）を組織し、改革改善の方向付け、肉付け、学科間・コース間調整、教育プログラム・ファカルティ・ディベロップメント（FD）の企画、授業参観の企画、授業アンケート、卒業予定者アンケート等の多種多様な作業を行っている。また、理学部教授会において、すべての教員が各種企画の実施承認、成果報告、改善点の検討に加わっており、理学部全体で教育改革に取り組む意気込みが伺えるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教育課程は共通教育と専門教育からなり、共通教育は高等学校教育と理学部専門教育を接続する科目群と位置付けられている。専門教育課程を主専攻プログラムと副専攻プログラムで編成し、2年次生から始まる副専攻プログラムにアドバンスプログラムとジェネラルプログラムが用意されている。将来の職業を明確に意識する学生はアドバンスプログラムを選び、幅広く学習したい学生はジェネラルプログラムを選ぶことができる。これは学生の興味に沿って勉学の幅を広げるもので、興味深い教育の試みであるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、在学学生は理系として通用する基礎学力を身に付けることに加えて、地域性を加味した理学部にふさわしい専門性を身に付けることを望み、同時に学業・進路等の選択肢拡大も望んでいる。地域社会は理系の基礎学力を備えた活力ある人材（ジェネラリスト）の輩出を求めている。平成19年度に改組した教育課程で、副専攻プログラムにおけるアドバンスプログラムとジェネラルプログラムの選択はこうした学生や社会からの要請に応えようとするものであるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間における判定として確定する。

3. 教育方法

平成16～19年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、大学科制に改組し、学生の進路選択の幅を広げ、理学士の教養として、数学的思考力・英語力・情報処理能力の向上を重視し、授業コマ数を多くとっている。希望する学生に TOEIC 試験を無料で受講させることによって学生の TOEIC 受験者数が増加し、平均点も向上している。演習と実験科目に1～

2名のティーチング・アシスタント（TA）を採用し（TA活用授業数約110、TA雇用数130～140名）、学習指導に役立っている。キャリア形成科目として、各学科にベンチャービジネス論を開講し、県内外の企業人を講師に迎えているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、理学部開設授業の44.3%は授業内容若しくは資料を学内LANで開示し、自学自習を促している。実験・実習・演習科目にTAを配置し、実質的な少人数教育で主体的学習を促しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間における判定として確定する。

4. 学業の成果

平成16～19年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、平成19年度、1年次学生の9割以上が英語・情報処理科目の単位を修得し、8割以上の学生が数学概論の単位を修得している。TOEIC試験の受験者が年々増加しており、語学力への意欲が認められる。平成18年度に卒業研究無資格者数が56名にも達したが、教育コース分属希望を100%受け入れるように変更した結果、無資格者数が減少したなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成16年度より実施している卒業生修了生のアンケートでは、満足できた授業の数は20～30と回答した学生が最も多かった。満足した理由として専門の力がついたが最も多い。また、現在の履修モデルに示されている授業に加えて、より高度な授業内容を実施してほしいという声がある一方、少しレベルを下げてほしいという声もあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成

果は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、理学部の就職率は 18 年度 95.6%と比較的高い水準にあるが、産業別にみると、1 位情報産業、2 位教育・学習支援とサービス業であり、学部卒の就職先は学習履歴に必ずしも結び付かず、企業は幅広い知識を身に付けたジェネラリストを求めていることが分かる。また進学率は平成 18 年度 44.9%であり、比較的高い水準にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、就職先の人事担当者へのヒアリング結果では、専門性よりむしろやる気や倫理観を求めており、ほぼそれに応えている。卒業生へのアンケートでは、多様な意見がでていますが、あまり勉強しなくても卒業ができてしまうという意見のある一方、高知大学、特に変換コースは熱心な先生が多いという意見が見られる。また、古い建物への不満や冷暖房設備への希望も多くみられる。地域懇談会においては高知大学と各部局の存在意義を高めるための方策を要望する意見が述べられるなど、率直な意見が寄せられていて、地域の期待は大きいなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が 3 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。

医学部

教育水準	教育 7-2
質の向上度	教育 7-5

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、医学部は医学科と看護学科から成る。医学科は 32 の講座（分野）から構成され、基礎医学系、社会医学系、臨床医学系の 3 つに大別される。看護学科は 11 の講座（分野）から構成され、基礎看護学、臨床看護学、地域看護学の 3 つに大別される。適正教員数に非常勤教員、さらに 41 名のティーチングアシスタント（TA）を配しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、医学教育創造・推進室が立案・支援に当たっており、卒後臨床研修センターを設置して一貫した教育体制を敷いているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、プロブレム・ベースド・ラーニング（PBL）導入を見据えたカリキュラムを展開している。また共用試験 CBT、OSCE を実施し総合的にフィードバックする工夫があるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると

判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生の意見を広く収集するシステムがあること、医療支援や国際協力の団体の活動の支援を行っていること、組織として卒後臨床研修センターを設置しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

3. 教育方法

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、早期体験学習を入学直後に行うことや、PBL 導入を見据えたカリキュラムを展開している。また共用試験 OSCE を実施し総合的にフィードバックする工夫があるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、IT 学習支援システムで教員の学習リソースを活用可能なシステムを設置しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、医師国家試験及び共用試験 CBT において一層の努力が求められるものの、看護師国家試験、保健師国家試験及び共用試験 OSCE については、良好な成績を収めており、医学科のリサーチコースを選択した学生が共著者として論文発表に加わり、学部学生賞を受賞するなど、相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学業の成果に関する学生評価が良好であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、専門職養成機関として良好な結果があるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、出身研修医、看護師の評価がおおむね良好であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年

度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が 1 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間終了時における判定として確定する。なお、判断理由については、以下のとおり変更する。

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が 2 件であった。

農学部

教育水準 教育 9-2

質の向上度 教育 9-5

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成 19 年度に 5 学科体制から、1 学科 8 コース制に再編され、新しいシステムの下に教育が行われている。学生は 2 年次にコースに所属するため、入学後 1 年間、時間をかけて自分に適したコースを選択できる。また、3 年次の転コースも可能としており、学生にとっては選択の幅の広い制度となっている。各コースには、主担当教員、副担当教員をコースを越えて配置しており、学生に広い分野に触れさせる工夫がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動も効率よく実施されている。FD 活動に事務職員を含めるという特色によって、効果を上げている。流域環境工学コースでは、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けるなど、教育に意欲が認められるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、8コース制をとり、また、教養科目と専門科目をくさび型に配置して、学年が進行しても、教養科目を履修できるように配慮している。専門科目では、全教員出動体制をとって取り組んでいる。農学部で必須なフィールドサイエンス教育にも十分な配慮がなされている。卒業論文指導では、副担当教員の指導も受けられるように配慮されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、授業の一部を市民に開放し、また、市民講座等を開講して、社会へ貢献しようとしている。また、就職活動支援科目を設けるなど、キャリア教育にも配慮が認められる。インターンシップにも単位を与えるなどの配慮があるが、それによる単位修得者はやや少ない傾向が認められる。出前授業をしばしば実施し、高等学校の教育との連続性に配慮しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間における判定として確定する。

3. 教育方法

平成16～19年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、シラバスに配慮している、フィールドサイエンス実習を重視している、アドバイザー教員制度を設け、学生の個別指導に力を入れているなどが評価できる。また、大学間国際交流協定のある複数大学との間で海外フィールドサイエンス実習を行っており、学生の国際的視野の涵養に配慮している。中国・四国国公立9大学単位互換制度に基づいて、他大学と実習の交流をしており、希望学生を派遣するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、全学生がノートパソコンを活用する体制を構築するとともに、多数の情報コンセントを学内に設置し、教員・学生、学生間の相互連絡

や自主的な学習に資するべく配慮している。コース分属については、ガイダンスに十分配慮している。卒業論文の履修などでは、教員と学生間の速やかな意思の疎通について努力しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、各種の資格取得で成果を上げることが理解できる。卒業論文の有資格者は 76%、卒業論文を提出して卒業する者の数は、83.3%である。JABEE の認定も、期待される数に近い成果を上げているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生のアンケートを実施しており、期待される水準の評価を得ている。就職支援活動に対してやや低い評価が認められ、改善が求められているが、教員の熱意の項で、学生の 78%が満足しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職率は 96.9%である。提出された現況調査表の内容では、就職先の大部分を占める企業の事業内容の情報について記載がないが、専門に近い分野で就職しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生によるアンケートでは、専門教育についての評価、教育・研究施設についての評価、卒業論文・ゼミの評価等、ほぼ良好である。また、当該大学が充実すべきものとして、教養教育、専門基礎教育、専門教育、卒業論文・ゼミ、職業に役立つ教育、英会話など国際化教育、情報教育、資格取得教育、世界観・人間の本質の勉学機会などに高い希望が示されているが、全般的にほぼ良好な評価を得ていると判断できる。また、企業を訪問した結果の報告書によってもおおむね良好と評価されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が 2 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年

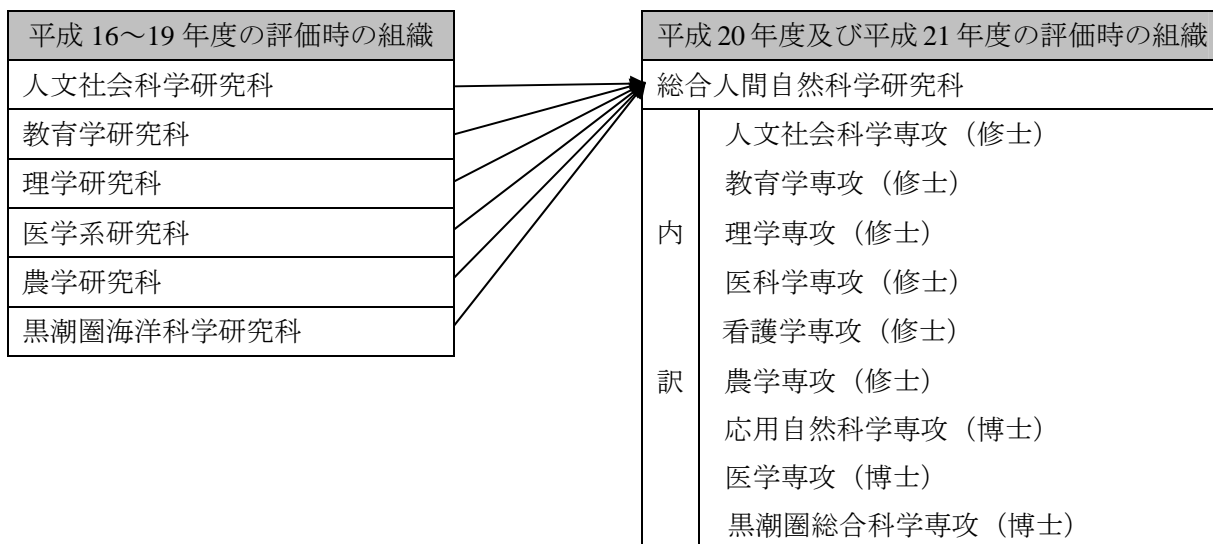
度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1
期中期目標期間終了時における判定として確定する。

総合人間自然科学研究科

教育水準 教育 12-2

質の向上度 教育 12-18

当該組織は、平成 20 年度に以下のとおり改組・統合された。



I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

人文社会科学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成 18 年度から専任教員が 76 名配されている。また、平成 19 年度の在籍者数は、一般選抜 11 名、社会人特別選抜 5 名、私費外国人留学生特別選抜 9 名、合計 25 名と、収容定員を満たし、かつ、各選抜方法も相応に機能しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、副学部長（委員長）と分野代表委員で構成される教育推進委員会の下に、教務委員会・改革委員会等を組織している。また、カリキュラム改革では学生のニーズも汲み取りつつ、教育内容・方法の改善に不断に取り組んでいるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

教育学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、定員充足率が平成 19 年度までに 50%～88%まで増加し、担当教員 87 名が適正に配置されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、平成 16 年度から平成 19 年度までファカルティ・ディベロップメント(FD)研修会で教育内容、方法の改善のための相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

理学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、大学院博士前期課程（3専攻）の入学定員が75名（収容定員150名）であるのに対し、指導教員57名（指導補助を入れると94名）と充実している。また、大学院博士後期課程（1専攻）の入学定員が6名（収容定員18名）に対し、指導教員が39名（指導補助を入れると48名）と多数であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、理学部運営委員会、研究科学務委員会、理学部大学点検評価委員会（大学院を含む）、博士前期分科会、博士後期分科会等の会議を系統立てて開催し、それぞれ将来計画、改革改善の実施に当たっての専攻間・講座間の調整・編成企画・ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施、授業アンケート、教育課程の実施・担当教員の資格審査等を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、理学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

医学系研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、大学院修士課程医科学専攻の設置で医学科以外の出身者を対象に医科学ベースの人材育成に取り組んでおり、かつ適正な教員数が確保されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、医学系研究科医学委員会・医学系研究科看護学委員会の下にそれぞれの運営委員会において教育内容、教育方法の改善をはかっている。専攻間の調整は専攻長会議が行い、具体的なファカルティ・ディベロップメント（FD）活動はFD推進委員会が担当するという体制が整えられていることなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

農学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、現状では受験者数が必ずしも多いとは言えない状況で、一層の教育内容の充実が求められる。フィールドサイエンスを重視しつつ、大学院としての機能を維持している。アジア・アフリカ・環太平洋農林水産学外国人留学生特別コース（AAP 特別コース）を設け、高知、愛媛、香川の各大学とも連携して、留学生の教育に貢献しようとしているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、研究科学務委員会に特命委員を設け、業務の効率化を図っている。ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動も行われているが、大学の運営に関する内容が多い。しかし、教員だけでなく事務職員も参加し、意見が反映されるようになってきているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

黒潮圏海洋科学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、16名の専任教員、13名の学内兼任教員、4名の連携・客員教員が4講座6分野に編成され、「黒潮圏科学」の教育・研究体制にふさわしい組織となっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、共通テキスト、学術雑誌の編集等を通じて理念の構築を図るとともに、平成19年度には5回のファカルティ・ディベロップメント（FD）に関する研究報告会等を開催や、学生授業評価アンケートを実施して、共通科目等の改善に努めている。また、平成19年には外部評価を実施して、指摘点についての改善を図っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、黒潮圏海洋科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、黒潮圏海洋科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記の各研究科は総合人間自然科学研究科として改組された。平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果については、以下のとおり、第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

総合人間自然科学研究科

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、大学院を文理統合の一元的組織を設置したうえで、教員を教育研究部所属に改編して横断的な教育研究活動を可能としている。また医科学専攻（修士課程）、医学専攻（博士課程）で新たな教育コースの開設や変更の取組がみられるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、専攻会議、教務委員会等の教育内容を検討するための体制を有しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、総合人間自然科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、総合人間自然科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

人文社会科学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、三つの研究分野それぞれに三つのコースが配され、履修したコースによって「学術」、「文学」、「経済」の学位が授与される教育課程に特色が見られる。また、学生個々人の研究テーマに応じて科目の履修が可能となるように配慮するとともに、論文指導ではいわゆる複数指導体制（主担・副担）をとっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、「特別研究Ⅰ、Ⅱ」と「総合研究」は修士論文作成に深くかかわる必修科目であるが、前者に対して当該学生 8 名中 8 名が「修論作成に役に立った」と回答し、後者に対しては 6 名が「役立った」、「まあ役立った」と回

答しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

教育学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、特に実践的能力向上の見地から長期インターンシップ 4 単位か実践研究 4 単位のいずれかの選択必修を導入するなど実践的指導能力を育成しており、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、修了予定者アンケートが授業に高い満足度を示し、また平成 17 年度より長期履修学生制度を導入するなど、現場の要請に応じており、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

理学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、大学院博士前期課程は 307 の授業科目を開設し、その内訳は講義 100、演習 186、実験 1、実習 20 であり、幅広く学習するために充実している。このほかインターンシップを設けている。大学院博士後期課程は講義 29、演習 14、実験 7、実習 0 で、大部分は特別研究に重点をおいているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、研究室での研究やゼミに対して満足度が高かった反面、講義の種類や質に対して一部学生に不満がある。地域の有識者を招いた地域懇談会においては南四国に位置する高知大学の特色ある研究教育を求める声があるが、海洋研究開発機構の活性化が期待されるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、理学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

医学系研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、社会人特別選抜を行い、社会人学生が多い点に対応して昼夜同時開講制を導入するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、各種研究機関へ大学院生を特別研究生として派遣・受け入れを行っており、また、医療関係機関の要請に応じて、「医療管理」科目を設置するなど、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

農学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、大学院教育の基本的水準が維持されていると判断される。修士論文の指導に、主指導教員、副指導教員の複数の指導体制としている。なお、大学院改組を決定し、教育課程・内容の大幅な刷新を図る計画を作成するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生の大部分は自専攻の授業科目を履修し、特別実験に多くの時間を費やしているとされる。また留学生に対する日本語補講を充実させているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

黒潮圏海洋科学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、共通科目から8単位を修得することにより、研究科の学際的理念の実現を図るとともに、専門的な学習を深める多くの授業科目を開設しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、社会人学生と留学生の比率が高いこと

に対応して、10月入学制度、昼夜開講制、短期集中型カリキュラム、長期履修制度等を行っている。また、就職支援についても、学部学生とは異なる対応体制を敷いているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、黒潮圏海洋科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、黒潮圏海洋科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記の各研究科は総合人間自然科学研究科として改組された。平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果については、以下のとおり、第1期中期目標期間における判定として確定する。

総合人間自然科学研究科

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、専門性を深化させつつ、領域横断的視点をも獲得する「主専攻履修」や、文理融合科目に取り組み、新領域を拓くための「準専攻履修」に加え、学生個々の目的に応じた近接分野・異分野科目の履修を可能としている「副専攻プログラム」を履修システムとして編成しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、平成16～19年度に係る各研究科の現況分析結果を踏まえ、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、総合人間自然科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、総合人間自然科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

平成16～19年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

人文社会科学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、人文・社会科学の複合大学院の利点を活かして、個々の学生の研究テーマ、研究計画に沿ったきめ細かな集団指導をおこない、また、長期履修制度を実施して社会人が学びやすい環境を整えているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、個別指導が必然的に学生の主体的な学習を引き出していることが窺えるが、このことは学生の学習指導評価データからも判断できるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

教育学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、少人数の履修体制と複数指導教員による修士論文の作成指導体制が実施されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、授業外の大学院生対象公開セミナーが平成 17 年以降定期的に実施されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

理学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、大学院博士前期課程と大学院博士後期課程ではともに主指導教員 1 名と副指導教員 2 名による教育を行っており、多面的な指導体制にある。大学院博士前期課程では研究企画能力を向上させる「リサーチプロポーザル（実習Ⅰ）」と就職希望者の問題解決能力を涵養させる「インターンシップ（実習ⅠⅠ）」を選択必修としている。大学院博士後期課程の特別考究では特別研究に対する文献整理を行い、英語により発表と質疑を行う。教育的配慮から博士前期課程の学生の全員をティーチング・アシスタント（TA）として採用している。大学院博士後期課程の学生の希望者全員をリサーチ・アシスタント（RA）として採用しているなどの相応な取組を行って

ることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、大学院博士前期課程の学生は「リサーチプロポーザル」において、研究企画書を自ら作成し、発表し、質疑応答するなどの方法で主体的に学習する機会が与えられている。また、大学院博士後期課程の学生は特別考究において、自らの研究を整理し、英語により発表する。この授業を通して、専門的知識と異分野知識を主体的に習得する機会が得られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、理学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

医学系研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、多角的学習指導形態、臨機応変な非常勤講師授業、そしてティーチング・アシスタント（TA）の積極的採用と配置が適切であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、一般的な支援の域とも見えるものの基本的な要件でよい取組が見られるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

農学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、全般的に、従来の大学院教育の一般的手法で教育が行われていると判断される。ただし、フィールドサイエンスについては、活用できる施設を有効に活用して教育を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、インターネット利用の体制を整備し、「グループウェア」の活用を促進し、情報提携に努めているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

黒潮圏海洋科学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、学際的視点の醸成を図るため、分野の異なる複数指導教員制度を設け、共通テキスト等を活用した共通科目「黒潮圏総合科学特論」を開講している。また、国際的視点の確保のため、交流協定を結んだ大学との交流を図るとともに、海外調査には学生を同行させ、海外における調査研究の機会を与えている。さらに、海外から招聘した研究者・学生との交流の機会を用意しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、正規の時間外の学習、研究を各教員が支援するとともに、学生の海外での調査の支援も行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、黒潮圏海洋科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、黒潮圏海洋科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記の各研究科は総合人間自然科学研究科として改組された。平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果については、以下のとおり、第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

総合人間自然科学研究科

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、平成 16～19 年度に係る各研究科の現況分析結果を踏まえ、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、「大学院生の研究発表を目的とする海外派遣事業」を実施し、毎年数回の派遣を実現しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、総合人間自然科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、総合人間自然科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

人文社会科学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、資料 2-8「人文社会科学研究科の卒業生進路状況」から、平成 19 年度は一般学生 9 名の修了生を出している。提出された現況調査表の内容では、社会人学生の動向は十分に把握できないが、入学定員（10 名）に照らしても、おおむね期待される学力・資質を身に付けて大学院修士課程を修了しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、提出された現況調査表の内容では、一般学生の評価は不明であるが、社会人学生は、当該研究科における学業成果が地域社会で活かせるものとなっていると評価しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

教育学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、平成 19 年度 1 学期教育学研究科成績によれば、優が全体の 9 割を占め、修士論文に基づく論文が全国学術誌に掲載されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、アンケート調査が学生の 80～90%以上の満足度を示しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

理学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、大学院博士前期課程の学位取得率は3専攻を合わせて、80～90%であるが、平成18年度以降90%を維持しており、妥当である。平成18年度に3グループと2名が学会等（日本地質学会、日本応用地質学会、日本地質学会・四国支部会、日本化学会中国四国支部）より賞を得た。平成19年度の学位取得者は7名で、学位取得率は46.7%となっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、大学院博士前期課程の学生に対するアンケートでは修士論文に対して満足できたものの割合が36%であるのに対し、満足できないものの割合が20%である。講義等授業に対する満足度は60%を超えているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、理学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

医学系研究科

期待される水準を下回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学位取得論文のレベルは良好だが、基本在学年数内の学位取得者の率が4か年度で高くないこと、特に平成16年度入学者（平成19年度取得年）が24%と低いことから、期待される水準を下回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成18年度の目的別の達成度調査結果では、医科学専攻では、若干低いものの、その他の専攻では、「研究者になる」、「高度な学問の修得」、「高度な専門職業人となる」の3つの目的すべてに対しておおむね良好な結果であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を下回る」と判断される。

農学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、教員免許資格取得は十分な状況ではないが、修了判定では、修士論文有資格者の 86%が合格するなど高い水準にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 18 年度に修了予定者の大学教育に関するアンケートを実施した結果、満足とやや満足を合わせて、勉学・研究が 68%、講義・実習で得られた知識 53%、指導教員の指導・支援の適切さ 77%、教育・研究設備 53%、キャンパスの環境・施設 35%、就職支援活動 12%、就職ガイダンス参加機会 33%となっており、「シラバスに沿った授業内容になっていないものがある」などの意見もある。また、留学生を対象としたアンケートにおいても、今後検討・改善すべき点がアンケート結果から浮かび上がったなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

黒潮圏海洋科学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、平成 17 年度及び 18 年度にそれぞれ 3 名の学生が学位を取得しており、修了学生は、査読付き論文 2.3 件、国際学会発表 1.2 件、国内発表 4.2 件を行っているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「教育・研究・生活環境アンケート」により、専門的能力の点や学際性の面ではなお問題が残っているが、学生からおおむね肯定的な評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、黒潮圏海洋科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、黒潮圏海洋科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記の各研究科は総合人間自然科学研究科として改組された。平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果については、以下のとおり、第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

総合人間自然科学研究科

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、平成 20、21 年度に当該大学院生は国際カイアシ類会議最優秀学生口頭発表賞等各種の学会賞等を受賞しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 16～19 年度に係る各研究科の現況分析結果を踏まえ、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、総合人間自然科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、総合人間自然科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

人文社会科学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 19 年度は一般学生修了生の進路が「一般企業」にやや特化した傾向が見られたが、2名の社会人学生が入学時の職業と違う職業に転職し、教員となったなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生の就職先の関係者から、専門的知識、企画力、実践力等において高い能力があり、コミュニケーション能力も高いという評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

教育学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 16 年以降平成 18 年度までの就職状

況が、平成 17 年度に一時低下するという事態が認められるが、平成 18 年度には大きく向上しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、高知県教育委員会と学部との協議会においてカリキュラムや授業内容への期待と要望が寄せられ、また就職ガイダンスにおいて教育委員会からの期待が表明されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

理学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 18 年度の大学院博士前期課程の修了生数 63 名のうち 11 名が進学し、43 名が就職した。就職希望者（48 名）のうち就職できた割合は 90%であり、ほぼ妥当な数字である。大学院博士後期課程修了生の進路は 1 位高度専門研究技術職、2 位教育研究職であり、高度な専門知識と技量を活かした職に就いているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、企業は理学研究科の学生に対し、高度な専門知識を習得しかつチャレンジ精神のある学生を求めているが、修了生はこれらの資質を備えているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、理学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

医学系研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院博士課程修了者の 5 割近いものが、大学や大学附属病院で研究に従事し、大学院修士課程医科学専攻修了者の 4 割が大学院博士課程に進学しており、大学院修士課程看護学専攻修了者は、大学教員等の看護学教育に携わるものが多いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、修了者の就職先によるアンケート調査において、職務上の技術、知識等をおおむね身につけているとの評価であるなどの相応な成果があるこ

とから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

農学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、修了生のうち約 68%が就職を希望し、100%が就職していることから、就職率は相応の水準にあり、専門教育で就業した分野で職を得ていることが窺え、進学者は約 27%おり期待される水準にある。AAP 留学生特別コース修了生の進路も良好であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、社会に出た学生に対するアンケートで、ゼミなどに低い評価を得ている。社会に出て役に立ったことについての回答を見ると、もっとも力を注いでいる修士論文の評価よりも、専門教育の方が評価が高い。しかし、卒業生が勤務する企業への訪問を行い卒業生についての評価に関する調査を行った結果、一定の評価を受けているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

黒潮圏海洋科学研究科

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 18 年度及び平成 19 年度の修了学生はいずれも高度専門研究技術職に就いているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、就職先企業への訪問調査、及び修了生からの聞き取り調査の結果からは、「文理融合の学際的能力」、「大局的に物事を見ることが出来る」等の面で肯定的評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、黒潮圏海洋科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、黒潮圏海洋科学研究科が想定している関係者の「期待される

水準にある」と判断される。

上記の各研究科は総合人間自然科学研究科として改組された。平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果については、以下のとおり、第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

総合人間自然科学研究科

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 16～19 年度に係る各研究科の現況分析結果を踏まえ、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 16～19 年度に係る各研究科の現況分析結果を踏まえ、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、総合人間自然科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、総合人間自然科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

平成 16～19 年度の現況分析において、各研究科から示された事例は、「大きく改善、向上している」と判断された事例が 1 件、「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が 1 件、「相応に改善、向上している」と判断された事例が 9 件あった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年

度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1
期中期目標期間終了時における判定として確定する。